

庄原市民会館・庄原自治振興センターの
整備に関する方針

平成31年2月

庄原市

目次

I	はじめに	1
II	施設の概要	2
1.	建物全体の概要	2
2.	各室の概要	2
(1)	庄原市民会館管理	2
(2)	庄原自治振興センター管理	2
III	施設の現状と課題	3
1.	庄原市民会館	3
(1)	現状	3
(2)	課題	3
2.	庄原自治振興センター	3
(1)	現状	3
(2)	課題	3
IV	庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会からの検討結果報告	4
1.	庄原市民会館が今後果たす役割（機能）	4
2.	庄原自治振興センターが今後果たす役割（機能）	4
3.	庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法	4
4.	庄原市民会館・庄原自治振興センターの改修	4
(1)	共通事項	4
(2)	庄原市民会館の改修	5
(3)	庄原自治振興センターの改修	5
V	整備に関する方針	6
1.	庄原市民会館・庄原自治振興センターに共通する整備方針	6
(1)	整備場所	6
(2)	整備規模	6
(3)	施設の安全性対策（最優先事項）	6
(4)	長寿命化対策	6
(5)	ユニバーサルデザインへの配慮	6
(6)	市民意見の反映	6

2. 庄原市民会館の整備方針	7
(1) ホールの改修	7
(2) 舞台関係の改修	7
(3) その他既存施設の改修	7
3. 庄原自治振興センターの整備方針	8
(1) 多目的ホールの新設	8
(2) 和室の改修	9
(3) その他既存施設の改修	9
VI 庄原市民会館・庄原自治振興センターの概算事業費及び整備スケジュール	10
1. 庄原市民会館個別事業費	10
2. 庄原自治振興センター個別事業費	10
3. 庄原市民会館・庄原自治振興センター共通事業費	10
4. 総事業費	10
5. 整備スケジュール	11
6. 年度別事業費	11
7. 事業費に対する財源	11
VII 配置図・平面図	
庄原市民会館・庄原自治振興センター配置図	12
庄原市民会館・庄原自治振興センター平面図	13

I はじめに

庄原地域の中心市街地（以下、「庄原市街地」という。）においては、市役所本庁舎をはじめ多様な公共施設等を整備してきたが、これらの中には整備完了から相当年数が経過し、老朽化に加え、建設当時の機能が現在の利用者ニーズに十分に対応できない状況がある。

なかでも、庄原市民会館と庄原自治振興センターは、一体的な施設で庄原市街地では最も大規模な施設であるが、築後 40 年以上が経過し、これまで大規模な改修を実施していないため、利用者等から施設整備を望む声が寄せられている。

その他、公共施設等が分散していることや機能が重複しているなどの課題もあり、将来の庄原市街地の機能強化や公共施設の最適な配置などを含め、総合的な検討が求められている。

こうした現状を踏まえ、平成 29 年 7 月に学識経験者や市民団体等の役員 9 名で構成する「庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会」（以下、検討委員会という。）を設置し、延べ 7 回にわたる検討委員会を開催した。検討委員会では、今後の庄原市街地の公共施設のあり方に大きな影響を与えることとなる、庄原市民会館及び一体的施設である庄原自治振興センターの整備について、市民及び高校生アンケートや 2 回の管理団体、利用団体からの意見聴取を行い、慎重にご議論いただいた。

平成 30 年 10 月、検討委員会から「庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する検討結果報告書」を提出いただいたところである。

庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備について、施設の現状と課題を踏まえ、この報告書を参考に「庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する方針」を定める。

II 施設の概要

1. 建物全体の概要

	庄原市民会館	庄原自治振興センター
所在地	庄原市西本町二丁目17番15号	
構造	鉄筋コンクリート2階建一部3階	鉄筋コンクリート2階建一部3階
敷地面積	10,787.00 m ²	1,767.00 m ²
全敷地面積	12,554.00 m ²	
駐車場面積	4,255.00 m ²	
建築面積	2,237.01 m ²	1,170.91 m ²
全建築面積	3,407.92 m ²	
延床面積	2,577.15 m ²	1,767.33 m ²
全延床面積	4,344.48 m ²	
竣工	1977年(昭和52年)9月20日	1976年(昭和51年)3月20日

2. 各室の概要

(1) 庄原市民会館管理

室名	定員等	面積 (m ²)	備考
ホール	926席	—	車椅子席10席
ロビー	—	381.72	
楽屋1	洋間	43.54	
楽屋2	11帖	25.99	
楽屋3	6帖	17.28	
集会室	150人	183.04	机使用の場合は80人
視聴覚室	—	15.39	
研修室F	30人	58.32	

(2) 庄原自治振興センター管理

室名	定員等	面積 (m ²)	備考
実験実習室	40人	63.18	料理実習室
談話室	30人	47.64	
研修室A	15帖	28.91	各種会議・茶室
研修室B	10帖	20.81	
研修室C	8帖	18.63	各種会議
研修室D	8帖	16.56	
研修室E	8帖	20.70	
研修室G	30人	68.40	洋裁・和裁研修室
1階会議室	—	36.92	
2階会議室	40人	44.20	机使用時は24人

Ⅲ 施設の現状と課題

1. 庄原市民会館

(1) 現状

庄原市の芸術・文化活動の拠点として、市民の文化の向上及び住民福祉の増進を果たす役割を担っており、NPO 法人庄原市芸術文化センターを指定管理者として管理委託している。926 席の大ホール、ロビー、楽屋、集会室、視聴覚室、研修室 F を管理し、平成 29 年度の利用者は 30,742 人となっている。

(2) 課題

施設全般に老朽化や経年劣化が進んでおり、近年多額の維持修繕費を要している。

躯体の防水性やホールの空調設備の不調、座席まわりの狭さ、トイレの快適性など、施設の改善要望の声が寄せられており、舞台設備についても文化施設の拠点としての改善が望まれている。

また、一体的な躯体をなす庄原自治振興センターとの境界部分等に耐震性が一部不足していることが判明し、耐震改修工事が必要となっている。

さらに機能面においては、旧中央公民館が担っていた貸館機能が、庄原市民会館・庄原自治振興センターの両施設に混在し、来館者の利用申請が煩雑になっている。

2. 庄原自治振興センター

(1) 現状

庄原自治振興区内において、協働のまちづくりをめざし、住民自治活動の充実を図るため、庄原自治振興区等の主体的な地域づくり活動並びに生涯学習等の拠点としての役割を担っており、庄原自治振興区を指定管理者として管理委託している。研修室 A・B（和室）、研修室 C・D・E（和室）、研修室 G、2 階会議室、談話室、実験実習室を管理し、平成 29 年度の利用者は 12,331 人となっている。

(2) 課題

施設の老朽化・バリアフリー化の改修が行われていないことに加え、地域住民の生涯学習活動、文化活動のための会議室や多目的なパブリックスペースが不足しており、庄原自治振興区から増床を含めたセンター改修の要望書が提出されている。

また、一体的な躯体をなす庄原市民会館との境界部分等に耐震性が一部不足していることが判明し、耐震改修工事が必要となっている。

さらに機能面においては、旧中央公民館が担っていた貸館機能が、庄原市民会館・庄原自治振興センターの両施設に混在し、来館者の利用申請が煩雑になっている。

IV 庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会からの検討結果報告

検討委員会から、平成30年10月に「庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する検討結果報告書」を提出いただいた。その内容は、以下のとおりである。

1. 庄原市民会館が今後果たす役割（機能）

庄原市の芸術・文化活動の拠点として、市民の文化の向上及び住民福祉の増進を果たす役割を担う。また、庄原自治振興センターと共に、庄原市全体への貸館機能を担う。

2. 庄原自治振興センターが今後果たす役割（機能）

庄原自治振興区内において、協働のまちづくりをめざし、住民自治活動の充実を図るため、庄原自治振興区等の主体的な地域づくり活動並びに生涯学習等の拠点としての役割を担う。また、庄原市民会館と共に、庄原市全体への貸館機能を担う。

3. 庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法

現在地において、大規模改修を行う。

4. 庄原市民会館・庄原自治振興センターの改修内容

(1) 共通事項

- ①耐震改修は必須である。
- ②20～25年後を見据えた整備を行う。
- ③アンケートで不満が多かった箇所を改善する。
- ④高齢者や障害者の方々はもとより、多くの方々に使いやすい施設とする。
- ⑤利用者及び関係団体の意見を取り入れながら進める。
- ⑥未利用者の意見も尊重する。
- ⑦庄原市民会館と庄原自治振興センターの事務室を、駐車場がある南側玄関、または現在庄原市民会館事務室がある北側玄関を改修して、隣接する形となるよう検討する。
- ⑧庄原市民会館と庄原自治振興センターの施設管理区分の見直しを検討する。

(2) 庄原市民会館の改修

①ホールの座席について

中央通路よりステージ側を席幅 520 mm に広げ、後方は現在と同じ席幅 (440 mm) で座席の取替えのみで席数を 832 席とする改修を実施する。また、車椅子席の数を十分確保する。

②トイレについて

和式を一部残し、洋式トイレに温水洗浄便座を設置する。ただし、温水洗浄便座の設置数については、導入コストやランニングコストを考慮する。

また、各階に多目的トイレを設置する。

③ロビーについて

照度の可変可能な LED 照明を導入する。

カフェスペース等の市民が気軽に立ち寄れる場所の確保を検討する。

④舞台装置等について

本来、委員会での検討の範疇ではないが、音響や照明、舞台装置等専門家の意見を良く聞いた上で導入すべきである。ただし、大規模改修時にしか導入できないものと毎年度の予算で対応可能なものに分け、効果的に改修する。

⑤その他

楽屋について、舞台出演者にとってより良い形で使いやすいものとなるよう、楽屋数も含め、検討した上で改修する。

(3) 庄原自治振興センターの改修

①和室の洋室化について

研修室 A・B は、和室としてそのまま残し、研修室 C・D・E は洋室に変更する。パーテーションにするかどうかについては、庄原自治振興区の意見をふまえて判断する。

②中ホール建設について

名称を「中ホール」から「多目的ホール」に変更し、予算に極力配慮し、整備を検討する。なお、可能な限り小コスト、省エネとなるよう、遊休施設の移築も検討する。整備場所は、北側緑地帯または東側庄原自治振興区駐車場が望ましい。

③その他

調理室や談話室等、現在使い勝手の悪い施設は、基本的に庄原自治振興区の意見を踏まえ、改修を検討する。

庄原市民会館との管理区分の見直しを踏まえ、事務室の移転や談話室 2 階部分への会議室の増築を検討する。

V 整備に関する方針

施設の現状と課題を踏まえ、検討委員会からの検討結果報告書を参考とし、以下のとおり「庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する方針」を定める。

1. 庄原市民会館・庄原自治振興センターに共通する整備方針

(1) 整備場所

アンケートや管理団体、利用団体からも現在地での整備を希望する意見が多く、財政的観点からも移転新築は困難なため、両施設を複合施設として現在地において整備する。

(2) 整備規模

築後 40 年以上経過し施設全体の老朽化が著しく、利用者ニーズを満たしていないため、大規模改修を実施する。

(3) 施設の安全性対策（最優先事項）

庄原市民会館と庄原自治振興センターの境界部分等の耐震性が一部不足していることから、耐震改修工事を実施する。また、天井、コンクリートブロック壁等についても施設の安全性を確認し、改修工事を実施する。

(4) 長寿命化対策

築後 40 年以上が経過する中、RC 造の耐用年数 65 年程度を見据え、20～25 年後まで使用できる施設とするため、屋上への防水加工、外装、窓枠、空調、照明等の改修工事を実施する。

(5) ユニバーサルデザインへの配慮

高齢者や障害者の方々はもとより、利用者にとって使いやすい施設とするため、多目的トイレや分かりやすい案内表示を設置するなどの改修を実施する。

(6) 市民意見の反映

アンケートや管理団体、利用団体からの意見を踏まえ、トイレの快適性の向上等改修箇所を判断すると共に、整備に係る経費の抑制に努める。

2. 庄原市民会館の整備方針

(1) ホールの改修

①客席

現在の客席は幅が狭く、座り心地についても改善を求める意見が多いことから、取り替えにより席幅を広げ改善を図る。

なお、席数についても現在と同程度の確保を望む意見もあることから、他市の改修事例も参考にし、800席程度となるよう改修する。

また、ホールへの出入りについては、車椅子の入場経路を整備するとともに、ホール内での車椅子席のスペースを十分確保する。

②天井

客席上部は、吊天井となっていることから、安全対策を含めて改修する。

(2) 舞台関係の改修

①舞台設備（音響・照明・吊物等）

舞台設備については、開館当初より更新されていないため、経年劣化が進み、利用者ニーズに十分に答えられていないことから、改修・更新を行う。なお、これらの改修・更新においては、専門的な知識を要するため、関係者や専門家の意見を踏まえた上で実施する。

②楽屋

楽屋について、明るさや浴室等の改修要望が多いことから、舞台出演者にとって使いやすいものとなるよう改修する。

(3) その他既存施設の改修

①事務室の移転

利用者の利便性向上のため、駐車場がある南側ロビーに事務室を新設し、インフォメーション機能を高める。また、既存の事務室は、自治振興区管理の会議室とする。

②その他の施設

集会室、研修室、ロビー等については、照明や内装等、必要に応じて改修を行う。

3. 庄原自治振興センターの整備方針

(1) 多目的ホールの新設

庄原自治振興区の振興区活動及び生涯学習活動において、必要な会議室、成果発表及び展示スペース等が不足しているため多目的ホールを新設する。

なお、庄原自治振興区からは二階建の建物を要望されているが、既存施設の改修により要望内容への対応が可能であるため、最小限の延床面積となるよう平屋建の整備とする。

また、多目的ホールの機能や規模については、検討委員会からの報告書、庄原自治振興区から提出された要望書や利用計画を参考とし、以下のとおりとする。

①多目的ホールの機能

ア) 会議室

利用率の高い集会室、談話室、研修室G及び2階会議室の状況を考慮し、大会議室を分割使用できるパーティション式の会議室

イ) 小ステージ及び展示機能

芸能サークルの練習や成果発表を行うことのできるスペース

②多目的ホールの規模

多目的ホールの規模については、以下の理由により 200 人収容可能な規模を確保する。

ア) 収容能力

庄原自治振興区利用計画によれば、200 人を超える規模での利用が自治振興区活動報告会で2日、総会等 100 人から 200 人での利用で 27 日など、200 人の収容規模を必要とする会議等が年間 29 日程度見込める。分割利用も想定できる 50～100 人規模の利用日数は自治振興区活動により 124 日となっており、合計すると年間 153 日、稼働率は約 42.7%となる。

■庄原自治振興区利用計画

利用人数規模	利用日数	適用
200 人超規模	2	活動報告会(展示含)
100～200 人規模	27	総会、地域交流会、市政懇談会、研修会、成果発表
50～100 人規模	124	自治振興区活動
合計	153	

イ) 必要面積

日本建築学会編集「建築設計資料集成」によれば、机椅子利用で200人が利用する場合、一人あたり約1.2㎡が目安となり、約240㎡程度が必要となる。

さらに、小ステージや収納スペース、通路等を考慮すると全体で約400㎡の面積が必要である。

③多目的ホールの整備場所

庄原自治振興区からの要望では、現在の庄原自治振興センター事務室東側駐車場付近への新設を要望されているが、要望されている場所では、新設する多目的ホールが縦長な形となり、会議、ステージ発表等での使い勝手が悪く、また玄関機能を果たしていない北側を有効活用するため、北側緑地帯へ新設する。

(2) 和室の改修

建設当初の利用目的と現在の利用者ニーズが乖離しており、利用が低迷している。庄原自治振興区の要望を踏まえ和室の研修室の一部を洋室へ改修する。

(3) その他既存施設の改修

段差等の利用しにくい状況から事務室や調理室、談話室等の改修を求める意見が多いため、庄原自治振興区の意見を踏まえ改修する。

VI 庄原市民会館・庄原自治振興センターの概算事業費及び整備スケジュール

1. 庄原市民会館個別事業費

(単位：千円)

	整備内容	金額	備考
①	大ホール改修一式	296,000	座席・天井・床・スロープ 等
②	舞台関連改修一式	322,000	音響・照明・吊り物・楽屋 等
③	その他	79,000	事務室移転・玄関改修 等
	合計	697,000	

2. 庄原自治振興センター個別事業費

(単位：千円)

	整備内容	金額	備考
④	多目的ホール新設一式	300,000	平屋建・会議室2室(間仕切り)・ステージ 等
⑤	既存施設改修一式	65,000	談話室・事務室・和室・実験実習室 等
	合計	365,000	

3. 庄原市民会館・庄原自治振興センター共通事業費

(単位：千円)

整備内容	庄原市民会館	庄原自治振興センター	合計	備考
耐震改修一式	20,000	14,000	34,000	両施設エキスパンションジョイント改修 等
外構・外装改修一式	161,000	111,000	272,000	屋上防水・窓枠 等
内装・トイレ改修一式	38,000	26,000	64,000	壁・床・2階多目的トイレ新設 等
設備・備品改修一式	69,000	47,000	116,000	空調・照明・排煙システム 等
基本計画・実施設計・工事監理委託費一式	97,000	66,000	163,000	
合計	385,000	264,000	649,000	

※共通事業費は、延床面積で按分

市民会館 2,577.15 m² : 庄原自治振興センター 1,767.33 m² = 59.3% : 40.7%

4. 総事業費

(単位：千円)

	庄原市民会館	庄原自治振興センター	合計
個別事業費	697,000	365,000	1,062,000
共通事業費	385,000	264,000	649,000
合計	1,082,000	629,000	1,711,000

5. 整備スケジュール

	2019 (平成 31) 年度	2020 (平成 32) 年度	2021 (平成 33) 年度	2022 (平成 34) 年度
庄原市民会館	基本計画	実施設計	改修工事	改修工事
庄原自治振興センター				

6. 年度別事業費

(単位：千円)

	2019 (平成 31) 年度	2020 (平成 32) 年度	2021 (平成 33) 年度	2022 (平成 34) 年度	合 計
庄原市民会館	11,000	54,000	801,000	801,000	1,082,000
庄原自治振興センター	8,000	36,000			629,000
合 計	19,000	90,000	801,000	801,000	1,711,000

※基本計画、実施設計が策定されていないため、2021～2022（平成 33～34）年度は、概算の全体事業費を2ヵ年に分けて計上

7. 事業費に対する財源

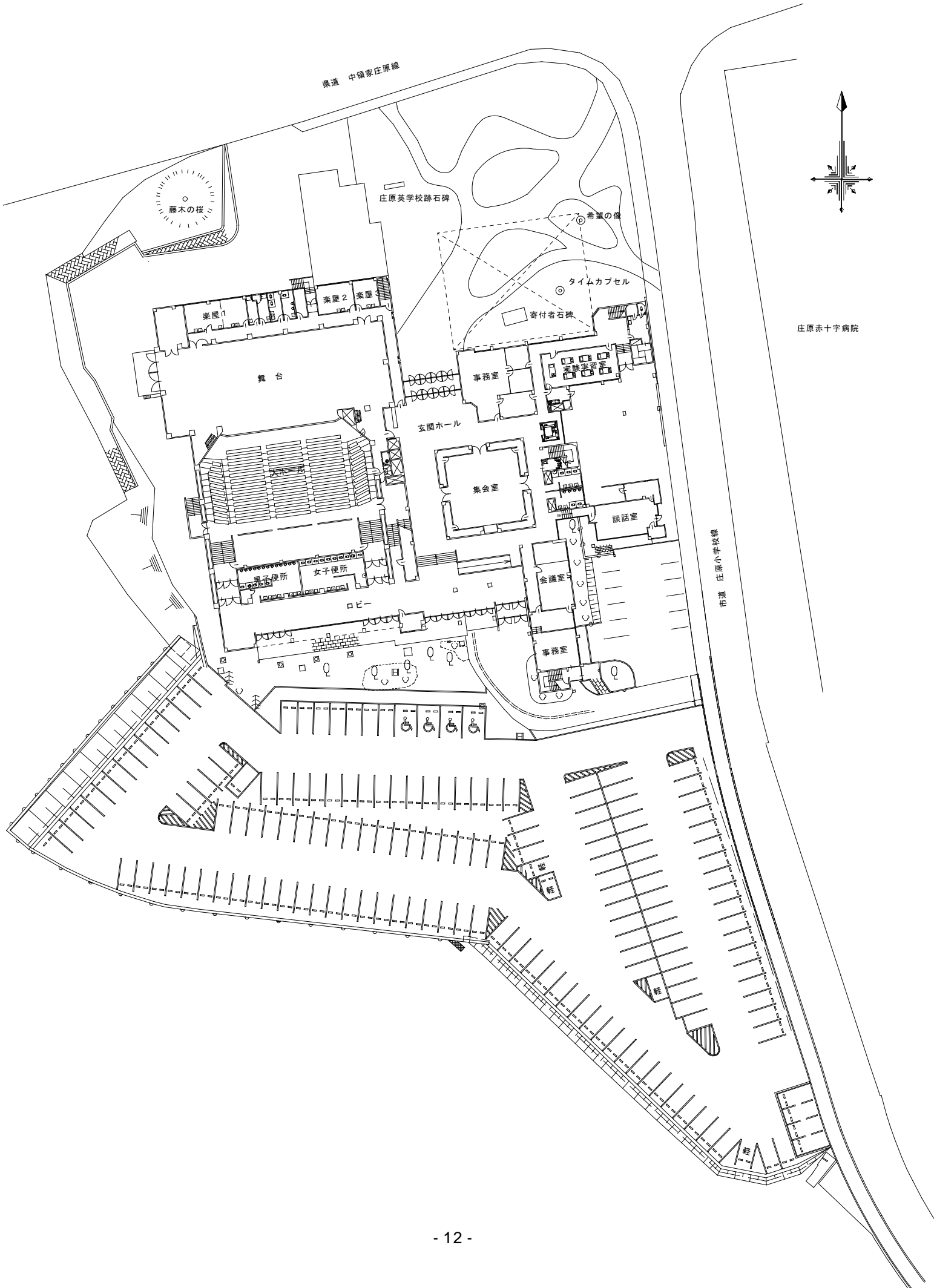
(単位：千円)

	庄原市民会館	庄原自治振興センター	合 計
①国県支出金	193,000	113,000	306,000
②起 債	54,000	488,000	542,000
③地域振興基金	824,000	0	824,000
④一般財源	11,000	28,000	39,000
合 計	1,082,000	629,000	1,711,000

※地域振興基金の充当について（庄原市民会館）

事業実施にあたっては有利な起債（過疎債等）の活用も検討する。

庄原市民会館・庄原自治振興センター配置図



■庄原市民会館・庄原自治振興センター平面図 (赤色:庄原市民会館 青色:庄原自治振興センター)

1階

